

切り取ってご利用ください

催し物のご案内

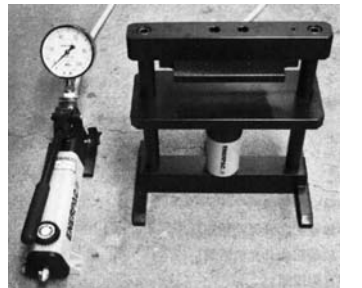
東 日本大震災の影響で中止となった2つの催し物を開催します。

1. 音楽講座Ⅲ「オペラの誕生」
音楽評論家の戸口幸策氏を講師に迎え、「オペラの誕生」をテーマに、お話しいただきます。
と き：3月17日(土) 午後5時15分開場、午後6時開演
参加料：1,000円(飲み物付き)
参加方法：美術館へ電話で申し込む

2. ワークショップ「発見&体験!! 版画の魅力」～あーとネット・とちぎオリジナル<版画用卓上油圧式プレス機>大公開～
県内の美術館関係者と教育関係者でつくる「美術鑑賞教育ネットワークとちぎ(あーとネット・とちぎ)」が開発した、オリジナル版画用卓上油圧式プレス機を使って、実際に木口木版画を刷るワークショップを開催します。
と き：3月25日(日) 午後1時30分～3時
講師：あーとネット・とちぎの皆さん
参加料：美術館の入館料のみで参加可(一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料) ※( )内は市民割引券を利用した際の料金です。
定員：20名(先着順)
参加方法：美術館へ電話で申し込む



戸口幸策著「オペラの誕生」2006年 平凡社



あーとネット・とちぎオリジナル「版画用卓上油圧式プレス機」

参加者の声でつなぐ 公民館の教室・講座紹介

⑪らくらく健康ヨガ教室(今市公民館)

今市公民館のらくらく健康ヨガ教室は、高齢者を中心に5、3月の毎月第2・4水曜日、今市中央コミュニティセンターで開催しています。参加者は毎回15名ほどで、野口清さんが講師を務め丁寧に教えてくれます。教室の前半は準備運動。参加者は息を深く吸って長く吐く呼吸法やストレッチなどをしながら、体全体を念入りにほぐしていきます。後半は、フニのポーズやバツタのポーズ、立ち木のポーズなどのヨガのポーズを行います。1時間の教室は終了です。教室に参加していた大久保節子さん(栗原)にお聞きしました。Q 参加した目的は何でしたか。A 広報紙で教室を知り、慢性疲労の解消と、体を柔らかくし

たくて参加しました。Q 受講した感想を聞かせてください。A 教室の雰囲気が良い楽しいです。今まで悩みだった首や腰などの痛みがなくなりました。Q 習ったことを自宅で実践していますか。A はい。ヨガをした後は体調も気分もいいので、自宅でも少しずつやっています。参加者の皆さんは、体が柔らかくなりポーズができるようになるだけでなく、体の痛みが和らいだり、風邪をひかなくなったりしているそうです。また、教室で知り合った方たちとの交流を楽しんでいます。らくらく健康ヨガ教室は、そんな和気あいあいとした楽しい教室です。



まずは準備運動を念入りに!



講師の野口さん 仲良くストレッチ。楽しい!!



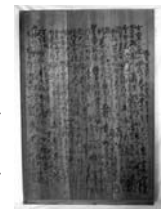
立ち木のポーズはバランスが大切

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎0286-217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日

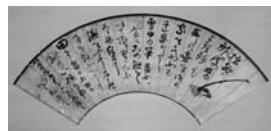
企画展紹介⑥ 老農関根矢作(展示資料紹介)

■板扉墨書
関根矢作は筆まめであり、10代のころから毎日日記を書いていただけでなく、おわんや蔵の柱、扉などにおびただしい数の教訓を書き残しています。この資料は彼が天保8(1837)年に建てた蔵の板扉で、農事や植林についての教訓が書かれています。その中に、「みだりに樹木を伐採しないように」と書かれており、矢作の行った林業を考える上で注目されます。



板扉墨書

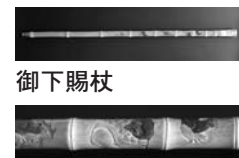
■品川弥二郎扇面
矢作は、明治時代の政治家である品川弥二郎と林業を通じて知り合い、文通するなどの交流がありました。この扇面は明治



品川弥二郎扇面

20(1887)年5月に弥二郎が矢作に送ったものです。

■御下賜杖
明治29(1896)年7月28日、94歳であった矢作は、今市駅で当時皇太子であった大正天皇に拜謁します。この杖は、2日後の30日に、体調を崩した矢作の代理として孫が日光に行った際に、「この杖で日光に来るように」と皇太子から下賜されたものです。



御下賜杖 御下賜杖(拡大)

◆企画展「老農関根矢作」
3月25日(日)まで
◆記念講演会「老農関根矢作」
3月10日(土)午後1時30分～3時30分

市民文芸

川柳 選者 山本 都留米

雛祭り孫を肴にもう一杯 石川みかん
少子化に雛段飾り初節句 岩崎松風
吊るし雛婆があちこち爺に指示 酒井喜鷹
並ぶ順すべてが決まる縦社会 青木照雄
見栄を張る親も負けない七五三 植田義雄
焼芋の匂いに負けて後戻り 北崎 君
健康法足をきたえて歩くだけ 白土武夫

俳句 選者 伊藤 清

銀世界やまの出で湯の初湯かな 池田三夫
旅立ちの息吐く頬に余寒かな 渡辺ミチ子
墨をすり静坐床しく賀状書く 徳本英子
山峡に薄日残れる冬木立 酒井智恵子
冬の薔薇高みに咲ける二輪かな 白土武夫
薄氷を踏み割る児等の声高し 斎藤愛華
柔らかき土の感触春隣 福田美代子

短歌 選者 阿久津 伸一

心いっぱい湖面を渡る風食めば思い 出沈めし中禅寺湖の輝く 関根眞佐子
陽の光遮る眼鏡掛け古りて「真実」 霞める視野に馴染めゆく 名古屋桂子
初日うけ金糸をまとう男体山を世界の平安念じて仰ぐ 福田きくい
初詣で朝日に光る霜柱踏む音湧えて身の新たなる 北崎 君
いつになく春待つ心持ちありたり義兄が逝きて友も病めれば 白土武夫
廃屋に柿の実たわわに熟れいるを食ぶる人なくうすく雪つむ 田中トミ
相馬節津波に消えり古里の亡き夫の声の如くに 村田登美

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください。
なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。
応募先及びくわしくは、秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109